

第13回^{あいおい}愛生祭(文化祭)～地域に根ざしたふれあいの場～

熊本県立ひのくに高等支援学校

1 はじめに

本校は、平成13年4月に開校した県内では唯一の高等部だけの特別支援学校であり、軽度の知的障がいのある生徒を対象にした学校です。卒業後の職業自立や社会自立をめざした生徒達が学び、専門学科での作業学習を中心に日々の授業に取り組んでいます。今年度、13回目になる「愛生祭(文化祭)」が2月23日(日)に行われました



玄関

2 概要

「愛生祭」は、生徒・保護者・職員が「おもてなし」の心を大切に地域の方とのふれあい、交流の場となっている行事です。事前に地域の方々には、生徒達が一軒一軒チラシを配り、愛生祭の広報活動を行いました。また、直接チラシを手渡しすると「いつも楽しみにしています」「がんばってね」「行きますね」と温かい言葉をかけてもらうなど地域に溶け込めていることが実感できました。



製品販売(窯業科)

当日は、生徒達のアイデア満載のダンスや短編映画、歌等が体育館で発表されました。その後には、専門学科の製品販売、生徒・保護者による食バザー等がスタートしました。



食バザー(焼きそば)

専門学科の製品販売には、早朝より長蛇の列ができ、開店と同時に売り場は満員になるほどで、短い時間で製品はほぼ完売になりました。来場者からは、「くまもの湯のみを買いに来ました」「生徒達の一生懸命さが伝わりました。」「どれもよい品ですね」などの多くの声が聞かれました。生徒達は、販売活動で直接、お客様からお金を受け取り、笑顔で製品を渡すやりとりをおして、つくる喜び・購入していただける喜びと成就感を味わうことができました。このことは、将来の職業生活に必要な力を高めていく場にもなりました。3年生は喫茶バザー、パンの販売を行い注文を受けたり、商品をテーブルに運ぶなどのこれまでの現場実習等で培った経験を活かす場になりました。保護者によるカレーや豚汁等の食バザー等もあり、昼食時には中庭が来場者でいっぱいになりました。

今年の「愛生祭」も生徒・保護者・職員の取組が地域の方々を笑顔に変える行事になりました。今後も地域に根ざした「愛生祭」になるように生徒・保護者・職員一丸となり取り組んでいきたいと思えます。